後輩に歌のエール

隠岐さん 五所高に凱旋

本県で開催中のクラシックの祭典「青い海と森の音楽祭2026」（東奥日報社などでつくる実行委員会主催）は3日目の2日、五所川原市の五所川原高校と青森市のサンロード青森でアウトリーチ（出前演奏会）を行った。五所川原高校では音楽主幹で同校卒業生のソプラノ歌手・隠岐彩夏さんが歌声を披露し、母校の後輩たちの輝かしい未来を願った。（秋村有香、工藤俊介、木村久遠）

青い海と森の音楽祭



アンコールで生徒たちと校歌を歌う隠岐さん（写真中央）＝2日、五所川原市の五所川原高校

会場の体育館には生徒・保護者ら約600人が集まった。6月に同校で講演している隠岐さんは「皆さんお久しぶりです。とっても特別な場所で、大好きな演奏家の皆さんと演奏できることを幸せに思っています」とあいさつ。他の出演者たちの弦楽合奏に乗せてヘンデル「オンブラ・マイ・フ」などを歌い、温かく清らかな声を響かせた。

アンコールでは、同校の校歌を演奏し、芸術総監督の沖澤のどかさん（青森市出身）の指揮で生徒たちが合唱した。最後に隠岐さんが「歌でエールを送ります」と「竹とんぼに」を披露。大きく羽ばたいてほしいけれど、故郷も忘れないでー」と祈りを込めた。

生徒会副会長の郡司勇斗（はやと）さん（2年）は「プロの演奏は迫力があった。隠岐さんの歌声からは『頑張って』という気持ちが伝わってきた。私たちの先輩でとても誇らしい」と喜んだ。吹奏楽部部長の藤本真琴（まこ）さん（同）も「同じ地元の人たちが活躍していることを肌で感じられた。校歌をプロに演奏してもらうのは本当に貴重な機会。一緒に歌うと普段より迫力があって楽しかった」と話した。

終演後、隠岐さんは「（演奏できて）うれしかった。高校時代の自分と生徒たちが重なった。本当に、幸せに歩んでいってほしい」と目を細めた。

音楽祭は8日目の3日は青森公立大学で室内楽公

繊細ハープに引き込まれ

サンロード青森 出前演奏会



サンサーンス「動物の謝肉祭より『白鳥』」を演奏するハープ・吉野さん㊧とチェロ・佐藤晴真さん＝2日、青森市のサンロード青森



アンコールを終え、大勢の観客の拍手が響いたサンロード青森

優雅なハープの音色が、買い物客でにぎわう商業施設に響いた。2日に行われた「青い海と森の音楽祭」のアウトリーチのうち、青森市のサンロード青森には700人を超える観客が詰めかけ、プロの演奏を間近で楽しんだ。

アウトリーチで唯一、一般客が自由に鑑賞できる会場とあって、午前10時の開店1時間以上前から市民らが

「ただいま
のどかさん
場しあいさつ
迎の拍手が
た。「2回目
大変さもあり
多くの皆さん
ながら迎え
き、とても幸
沖澤さんが
思いを語ると
び大きな拍手
た。

今回は、日
るハープ奏者
さんも出演。
身が出演を熱
した。トゥル
プのための
ド」やマスネ
瞑想曲」など
露。繊細で豊
広がると、観
引き込まれて

アンコール
全員が「ふる
で、観客も歌
会場は温かな
まれた。

市内の古川
の細川樹奈さ
ゃんと聴かな
に力を入れる
く、ただ楽し
だなって。音
中に溶け込む
がしました」
た。

奥T画
東NE
動